

学術フォーラムの概要について（事後報告）

1 名称：「立法システム改革と立法学の再編」

2 日本学術会議以外の共同主催団体等：

科研費助成共同研究体「立法システム改革の立法理学的基盤構築」  
（基盤研究 B H24~H26）

3 開催日時：平成 26 年 7 月 6 日（日）13:00~17:00

4 開催場所：日本学術会議講堂

5 開催趣旨：

55 年体制崩壊後、現代日本の議会民主政は幾多の曲折を経つつ、政権交代により政治が大きく変動する時代を迎えている。それとともに、国論を分断するような重要な問題について矢継ぎ早に法改正が断行され、この傾向を助長する方向に日本の立法システムも変動しつつある。本フォーラムでは現代日本の議会民主政とその下での立法システムのこのような変動が孕む問題点を解明し、ありうべき改善方法を考案し、立法システム改革の指針を示しうる学への立法学の再編について協議する。

6 参加人数：

講演者等：10 名

その他の参加者：約 120 名

7 特記事項：

20 期から 22 期まで 3 期に亘る立法学分科会と同分科会委員長の井上が研究代表を務める科研費共同研究組織との協働作業の成果を本学術フォーラム開催と同時に、共同論集『立法学のフロンティア』全 3 巻（ナカニシヤ出版、2014 年 7 月）として刊行し、これを踏まえて、現代日本の議会民主政と立法システムのあり方につき問題提起を行ったので、大きな社会的発信効果があった。フォーラムの内容の雑誌等での公表については検討中。

朝日新聞・読売新聞・毎日新聞等、主要紙で本フォーラムの広報がなされた。聴衆も、受付で記帳した人が 117 名、会場でカウントしたところ、登壇者も含めて 130 名以上の人数がいたようである。学術フォーラムとしては、参加者数はかなり多かったと言える。またアンケートでも、内容評価質問項目回答者 84 名のうち、約 6 割にあたる 50 名が「大変よかった」、「まあまあ良かった」の 31 名も含めると、回答者の約 96%が「良かった」と評価しており、成功だったと言ってよい。